大河ドラマの時代から見る地震災害

大河ドラマが画いている時代は、全部地震が多かった時代の作品であります。逆に言えば地震が多かった時代だから社会が混乱し、その混乱で社会が変化し、若者が大きく時代を変える。例えば、大河ドラマ真田丸は、初めて大河ドラマで慶長地震と慶長伏見地震を本格的に画いていました。

この時代は、中部日本を破滅に陥れた過去最大の内陸直下地震が発生しました、養老・桑名・四日市断層、荘川断層、阿寺断層、海底活断層が連動して地震を起こした天正地震です。この地震で、富山の越中貴船城、滋賀の長浜城、飛騨の帰雲城、岐阜の大垣城、三重の長島城、愛知の蟹江城や岡崎城など、たくさんの城がつぶれました。この時、岐阜県の大垣城には秀吉が家康を攻めるべく、兵を終結していましたが、大垣城がつぶれたおかげで、家康は命拾いをして、次の時代が生まれてきたのです。

この地震群の後、朝鮮に出兵をします。天正地震からちょうど10年たった1596年9月1日、最初に襲ったのが、中央構造線がずれ動いた慶長伊予地震です。これで四国は壊滅的な被害を受けます。3日後の9月4日には、慶長豊後地震が発生し、別府も壊滅的な被害を受けます。翌日の5日には慶長伏見地震で伏見城が倒壊しました。

翌年には、秀吉が死んで、みんな命からがら朝鮮から逃げ帰ってきます。戻ってきたところで、関ヶ原の戦いが始まり、東軍が勝って、肥後国をもらい受けた加藤清正が熊本城をつくる。そして江戸時代が始まり、その2年後に慶長地震が発生し、すさまじい津波によって東海地域が大きな被害を受けます。その後つくった東海道五十三次は、海辺ではなく高台に通されました。また、愛知県の清州城は液状化で大きな被害を受け、清州城では大阪の見張りができないと考えた家康は、城を熱田台地の上へ移転するように命令し、名古屋城をつくりました。

その後、東北では会津地震が発生、さらに三陸地震が発生します。北海道から仙台が津波で被害を受けますが、伊達正宗が、仙台の街を高台で復興します。奥州街道も内陸を通しました。その結果、仙台周辺で東日本大震災の津波の被害を受けたのは、戦後に開発が進んだ地域であり、奥州街道沿いの盛岡や一関といった東北の大都市はほとんど被害を受けませんでした。

これだけすごいことを、我々は目の当たりにしているので、これから被災する私たちも決定的な防災対策をしていなければいけないはずなのに、残念ながら家具の転倒防止などの対策すら進んでいません。大いなる反省が必要だと思います。皆さんは家具の転倒防止金具を買い、すぐ家具を固定してください。まだ対策をできていない人がしっかり対策をとれば、この播磨町の防災力は極めて高いものになります。防災とは、結局はそういうものであって、そんな立派なものではありません。あらゆる人が、少しだけきちんと対策をすることが基本のように思います。こういうかたちで歴史が動いていくことに気がついていただけたかと思います。

講演で紹介された地震の年表

868年　播磨国地震

869年　貞観地震

1586年１月18日　天正地震
養老・桑名・四日市断層、荘川断層、阿寺断層、海底活断層が連動して地震を起こした。富山の越中貴船城、滋賀の長浜城、飛騨の帰雲城、岐阜の大垣城、三重の長島城、愛知の蟹江城や岡崎城など、たくさんの城がつぶれた。

1596年９月１日　慶長伊予地震
中央構造線がずれ動いた。四国は壊滅的な被害。

1596年９月４日　慶長豊後地震
別府も壊滅的な被害。

1596年９月５日　慶長伏見地震
伏見城が倒壊。

1605年２月３日　慶長地震
東海地域が大きな被害。その後、東海道五十三次は、海辺ではなく高台に通されました。愛知県の清州城は液状化で使えないため、城を熱田台地の上へ移転して名古屋城を築城。

1611年９月27日　会津地震

1611年12月２日　慶長三陸地震
その後、仙台のまちを高台で復興。奥州街道も内陸を通した。

日本文化と災害

私たちは、自然と共に生きている国民であるということを、思い出さなければいけません。私たちは自然の恩恵を受けて暮らしています。ですから時々自然から痛い仕打ちを受けてもおかしくはないのです。こういう国に住んでいたからこそ、日本は世界でも独特な文化を形成し、いかに自然とつき合うということを中心にした生活を戦前まではずっと営んできました。

最後に

最後に、伝えたいことですが、実は私たちの国は、水を供給するための安全性を十分に確保できていません。災害が発生してしまうと水はこないかもしれません。もしも、水がこなかったら、工業用水が来なかったら工業地帯は機能しなくなります。同じように発電もできないし、燃料もつくれません。電気がいかなければ、水もつくれないし、燃料もつくれません。燃料がなければ、水もつくれないし、電気もつくれません。これは、昔と大いに違います。ただ、困ったことに多くの国民は、そのことに気がついていません。

私は最近、自宅の敷地内に井戸を掘りました。畑も始めました。屋根には太陽光発電設備をのせ、蓄電池や燃料電池も備えました。これさえやっておけば、向こう三軒両隣のご近所さんは、我が家で助けてあげられると信じています。

ここにいらっしゃる方々が、このような取り組みを少しずつやっていただければ、10倍くらいの人の命が救われます。今日申し上げてきたことは、「彼を知り己を知れば百戦殆うからず」「君子危うきに近寄らず」「転ばぬ先の杖」「備えあれば憂いなし」「災い転じて福となす」というお話をさせていただきました。

播磨町自主防災組織連絡会
会長　小林 賢一 さん

播磨町も過去に大きな地震にあっています。今後発生する確率が高いと言われている南海トラフ巨大地震は、必ずやってきます。明日かもしれません。

しかし、必要と思っても、なかなか取り組むことができない。それが、防災にとって大きな課題であると思っています。今回の福和先生のご講演を通して、皆さんの防災・減災への取り組みを、一歩でも進める足掛かりとなればと思います。

播磨町副町長兼危機管理監
三村　隆史

南海トラフ巨大地震や巨大化する台風による風水害など、甚大な被害をもたらす災害が想定されるため、それぞれの地域における防災減災対策の強化が急がれています。災害における被害を最小限に抑えるためには、行政だけではなく、家庭や自主防災組織、消防団、事業者など、地域を担う皆様の防災活動を基盤として町ぐるみで、災害への備えを強化しなければならないと考えています。

非常食にもなる物を備蓄しよう

災害時に備えて普段からできることの一つとして「食料・飲料の備蓄」がありますが、普段食べ慣れない防災食品を購入し、食べないまま期限切れになってしまった経験はありませんか？

特別な非常食を購入しなくても、日頃から長期保存可能な食品（缶詰・レトルト・インスタント麺・米・乾物・玉ねぎ、じゃが芋などの野菜）や水などの飲料を買い置きしておけば、いざという時の非常食としてだけでなく、普段の食卓にも使えて便利です。

備蓄する食料・飲料は、1週間分、家族構成に合った内容の物（特に乳幼児・高齢者・アレルギー・持病がある人）を用意しましょう。

買い置きした食品は定期的に賞味期限をチェックし、日頃の食生活で期限の古いものから利用し、なくなれば買い足しを繰り返し、上手に備蓄をしましょう。

今回は、スキムミルクを使った料理を紹介します。スキムミルクは、常温で製造日から約1年の保存が可能です。さらに、栄養面においても、良質なタンパク質、カルシウムなどを豊富に含んでいるので、成長期の子どもや高齢者の栄養補給ができる備蓄品として最適です。また、スキムミルクは低脂肪なため、カロリーやコレステロールを気にしている人にもおすすめの食品です。

ツナとコーンのクリームリゾット

（材料）2～3食分

ツナ缶　……1缶（70～80g）
粒コーン缶　……小1缶（190g）
玉ねぎ　……1/2個分
オリーブ油　……小さじ2
レトルトご飯　……1パック（200g）
◎ スキムミルク　……大さじ5（30g）
◎ 水　……300ml
固形コンソメ　……1/2個
塩・こしょう　……少々
粉チーズ　……好みで適量

<作り方>

①ツナ缶・コーン缶の汁気をきる。玉ねぎはみじん切りにする
②鍋にオリーブ油を入れて中火にかけ、玉ねぎを加えて全体がしんなりするまで炒める
③②に①、◎、コンソメ、レトルトご飯をほぐしながら入れ、吹きこぼれないよう注意しながら時々混ぜ、ご飯が軟らかくなるまで5～7分煮る
④塩・こしょうで味を調え、器に盛り、食べる時に好みで粉チーズをかけて食べる

▶**問合せ**　すこやか環境グループ
☎079（435）2611